

なんでやねん

課題「もし、自分が戦時中に生きていたら」の評価基準 弟や妹が生き抜くために必要な知識、生き延びて伝えて欲しい知識

評価基準(採点基準)は、伝えようとしている「知識」がこれまでの社会科の授業で学んだことや、自分で調べた専門的な知識を活用しているかどうかである。さらに、弟や妹に説明する方法が具体的に表現されているかを評価する。

- (1) 伝えるべき「知識」を説明している。 1つの「知識」につき2点。
- (2) 自分で調べたことを活用している。 1つの「知識」につき2点。
- (3) 弟や妹に、伝わりやすい表現を工夫している。 2点。

【課題 ①】で、これだけは必要な「知識」

- ① 隣のお兄ちゃんがいなくなった … 徴兵制について説明する。
- ② 農家には米がある … 法律で個人的な売買は禁止されており、その農家が食べる米と、種粃(次の年に種としてつかう)以外の米は、政府が買い取る(食糧管理法)。米はすべて国が管理する仕組みになっていた(国家総動員法)。
- ③ 食料がなくなった … 国内で農作業をしていた若者、工場の労働者、商業などに従事していた人々も兵士として戦場に行くと、食料の生産や輸送もどこおる(停滞する)ことを説明したい。
- ④ さらに、食料を生産していた人が生産しないで、消費者になることになり、ますます生産が減り、消費が増える(兵士は食料の消費者)ので、食糧難が深まることを説明したい。
- ⑤ ちなみに、当時の日本は、国内で消費する米の10%以上を植民地の朝鮮や台湾から輸入していた。植民地での徴兵や強制連行で労働人口が減り、植民地も生産力が落ちた。さらに、輸送船など船舶の不足などから、植民地の米が日本に届かなくなっていた。

【課題 ②】で、これだけは必要な「知識」

- ① 工場に中学生が働きに出ることは、学徒動員とか勤労動員と言われた。

工場^{こうどう}で働^{はたら}いていた人達^{じんたつ}(労働者^{ろうどうしや})が戦地^{せんち}に兵隊^{へいたい}にとられたので、工場^{こうどう}の生産^{せいさん}が止^とまった。それでは、兵器^{へいき}がなくなり戦争^{せんそう}を続けることが出来ない^{できない}ので、中学生^{ちゅうがくせい}を工場^{こうどう}に「徴用^{ていよう}」したのである。

- ② これは、国家総動員法^{こくかそうどういんぽう}に基づいて「国民徴用令^{こくみんちゅうようれい}」(昭和14年7月8日勅令^{ちよくれい}第451号)という天皇^{てんのう}の命令^{めいれい}(勅令^{ちよくれい})という)が制定^{せいてい}されたからである(実際^{じっし}には政府^{せいふ}の独断^{どくたん})。天皇^{てんのう}の命令^{めいれい}に、逆^{さか}らうことは許^{ゆる}されなかった。
- ③ サイパン島^{さんぱんとう}が陥落^{かんらく}して都市^{とし}が空襲^{くうしゆう}されるようになると、無差別^{むさべつ}の攻撃^{こうげき}を受けるので、学童^{がくどう}(小学生^{しょうがくせい})でも殺^{ころ}される。

学童^{がくどう}は、戦力^{せんりき}にならないからだけではなく、将来^{たらく}の日本^{にっぽん}を託^{たく}すべき国^{くに}の宝^{たから}だから疎開^{そかい}して生き延び^のなければならない。

- ④ そこには、個人の生命^{じんごのせいめい}は、個人のものではなく、国家・天皇^{こくか・てんのう}のためのものであるから、勝手に^{かんてん}失^{うしな}つてはいけないという思想^{しそう}があった(全体主義^{ぜんたいしぎ})。この点^{てん}に気づくことが出来^{でき}ると、相当^{そうとう}高い学力^{がくりき}が形成^{けいせい}されている。
- ⑤ 農村^{りゅうん}に行^いけば、いじめられ^{いじめられ}ることが予想^{よそう}できる(農村^{りゅうん}の少ない食料^{じきりょう}がさらに減^へるから)。いじめを克服^{こくふく}する生活^{くわくわ}の知恵^{ちえ}が必要^{ひつよう}である。

「作文^{ぶんぱん}」で培^{たも}う学力^{がくりき}と、試^{ため}される学力^{がくりき}

今回の課題作文^{かだい}は、「生活上の問題^{じふじやうのしやうどん}」について書かれた文章^{ぶんしやう}から、解決^{かいけつ}すべき課題^{かだい}を自分で発見^{はっけん}しなければならない「テスト」です。これまでの「テスト」と違^{ちが}って、何^{なに}について書かなければならないのか、「問題文^{しやうどんぶん}」にありません。

作文^{ぶんぱん}を書くために、何^{なに}の話題^{わだい}を取り上げるかは、自分で発見^{はっけん}するしかありません。このような「テスト問題^{ため}」が試^{ため}しているのは、「課題設定力^{かだいせつていりきよく}」です。現代社会^{げんたいしやかい}で最も必要^{ひつよう}とされている学力^{がくりき}を試^{ため}しました。

君^{きみ}たちが生きていく時代^{きだい}は、これまでの時代^{きだい}に比べて、比較^{ひかく}にならないくらい困難^{こんなん}な社会問題^{しやかいしやうどん}に襲^{おそ}われるかも知^しれません(社会問題^{しやかいしやうどん}は否応^{いやおう}なしに、君^{きみ}たちの生活^{しやうか}に影響^{えいきやう}します。かつての戦争^{せんそう}の時代^{きだい}のように)。だからこそ、だれ^{だれ}かの命令^{めいれい}に従^{したが}うのではなく、現実^{げんじ}の社会^{しやかい}でおきている問題^{しやうどん}を自分で見^みつめ、解決^{かいけつ}方法を探^{さが}すための課題^{かだい}を、自分で設定^{せつてい}することができる学力^{がくりき}が求められています。

「答え^{こたへ}」を覚^{おぼ}える学習^{がくしゆ}だけで終わ^おわるのではなく、理解^{りかい}し覚^{おぼ}えたことを、もう一度^{うたが}疑^ぎい、自分の生き方^{いきかた}を決定^{けつてい}するために、現実^{げんじ}の「社会問題^{しやかいしやうどん}」にあてはめる学力^{がくりき}を蓄^{たくわ}えてください。「作文^{ぶんぱん}の課題^{かだい}」には、そんな目的^{もくてき}があります。